【第5回】“みんなでつくる”五ヶ瀬川タイムライン検討会　議事概要

概要

（平成29年3月23日）タイムラインの一次案とりまとめ

今回の検討会では、過去4回の検討会を経て作成した多機関連携型タイムラインをとりまとめた成果を提出しました。今回とりまとめた想定最大規模降雨に対応したタイムライン検討会では、発災時に他機関が実施している防災行動を把握できるようになった点や防災担当者同士の顔が見える関係・繋がりを構築できた点などの成果が確認できた。一方で、各機関が想定最大規模降雨にも対応可能なマニュアルを検討する必要がある点や浸水が継続するため、実際に防災行動を実施することができるか不明な点など課題も発見されました。今後も検討を継続し、タイムラインをさらに深化していきます。

WG内での主な意見

・現在決まっている避難場所は安全ではなく、また、近くの避難場所として学校が挙げられているが、浸水していると避難ができなくなってしまうため、現状の避難場所ではL2に対応できないことが課題である。

・今後、津波対応の避難ビルのようにL2 に対して洪水避難ビルが設定されていく必要がある。また、避難所を増やしていっても、それを誰が運営していくのかなどの課題について検討していくことが必要である。

・L2 洪水では、破堤したら誰も何もできなくなるため、国交省が検討している携帯会社と提携した緊急速報メールを活用したPUSH 型のメール配信に期待したい。

・L2 洪水では、破堤したら誰も何もできなくなる。 L2 洪水で破堤した場合（直轄区間）、広範囲の浸水となり、実際に行動できるか懸念されるため、浸水予想ができれば、優先的にどこから対応すればいいのか判断できるが、人員確保や資機材の確保など新たな問題が多い。今後、継続的に机上訓練を実施していただきたい。

・今までの避難場所はL1に対応したものであり、 L2 では垂直避難も厳しい。今後は、避難が重要であるため、延岡市の方では広域避難しないといけなくなった場合、他の市町村との連携をどうしていくのか検討が必要である。ただし、高い地区へ避難しても、土砂災害の危険もあり難しいところがあると思われる。

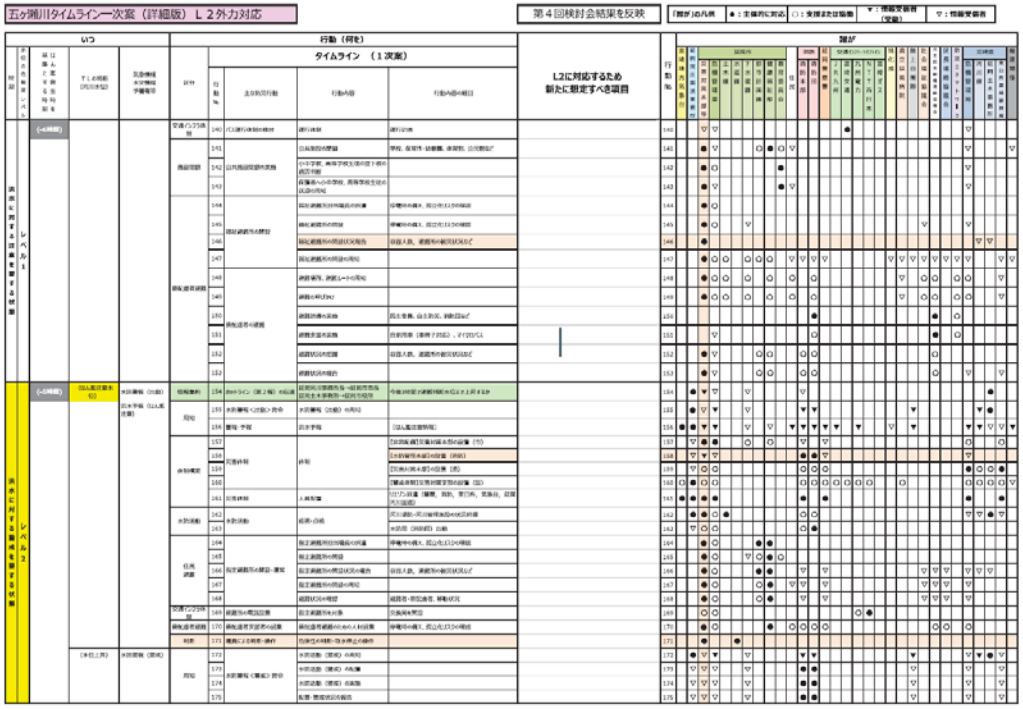
・土砂災害や夜間時の対応、内水なども考慮したタイムラインの行動内容についても検討していただきたい。

・ 平成17年度の災害の時に避難勧告・指示を発令しても避難しない状況があったため、住民が避難するような情報発信等が大きな課題である。

座長総括

・既往最大を超える災害が起きることはあるので、今までの枠ではなく、新たにL2の枠を考えないといけない。

・次年度、L2対応の防災行動が想定された二次案が作成できればいいと考える。

写真（上）：
第五回タイムライン検討会の様子

写真（下）：
作成された五ヶ瀬川タイムライン一次案